



# 峯の風

学校教育目標  
未来に向けて  
輝く峯の子



100周年キャラクター峯いい

峯小学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mine/> (2024. 6. 21更新)

## 初めての宿泊体験学習、“協力して生活する”ということ！

副校長 田中 力

本校の“特色ある教育活動”のひとつでもある縦割り活動で行う「全校遠足」が無事に終了しました。予備日の実施となりましたが、学校に戻ってきた子ども達の表情からは“楽しかった”！という感想をたくさん聞くことができました。

6月11日(火)・12日(水)に、4年生の「愛川ふれあいの村宿泊体験学習」の引率に参加させていただきました。青く澄んだ空の下、大勢のお見送りの方々に見守られながら、4年生を乗せた2台のバスが学校を出発しました。

『初めての宿泊体験 みんなで協力して メリハリをつけて楽しく学ぼう』

直前に行った出発式の中で、今回の体験学習のスローガンが確認されました。学校行事としては初めて自宅を離れた泊を伴う学習となるため、1泊2日という短い時間ではありますが、自分たちの力で生活をしなければなりません。初体験となるこの課題を、子ども達がどのように考え、学び、解決していくのか…。私はその部分もしっかり発見したいと思いました。

途中渋滞の影響で到着がやや遅れましたが、4年生を乗せたバスが愛川ふれあいの村に到着しました。気温は真夏を思わせるような暑さでしたが、湿度が低く、時より吹く風がとともさわやかで、新緑に包まれた愛川町は横浜市とは別世界に感じました。



到着後、まずは野外炊事。行動グループでピザを作りました。メンバー個々が順番に生地を捏ねる工程の中で、「もう、こんな感じでいいかな?」、「まだ、捏ね続けないといけないんじゃない?」という言葉が聞こえてきました。交代しながら試行錯誤して、作業を進めると、「そろそろ、いいかな?」と誰かが口にしめます。次の工程は、生地を発酵させるためにボウルにラップをかけます。ラップ越しに見る丸められた生地を子ども達はしばらく観察していましたが、しばらくの間は顕著な変化が見られないため、少しずつ子ども達の目が生地から離れていきました。しかしある程度時間が経過すると、あるグループの子どもたちが声を上げました。(生地が)膨らんでる! この声に周囲の子ども達の視線が、再びピザ生地を集まってきます。自分たちの“努力の結晶”が焼き上がると、本当に美味しそうに食べていました。

そして2日目の朝、大きな驚きがありました。



朝食を終え部屋の掃除が終わり出発準備をしていると、男子児童2名と女子児童1名が、各部屋から集めて畳み終えたすべてのシーツを1枚1枚確認しています。すると、急にフロアに1枚のシーツを広げ始めたのです。どうしたの?と質問すると、「畳み方が少し雑だったので直しています。」と答えました。たがいに声を掛け合いながら、そのシーツを手際よく畳んでいきます。その後、同じように2枚のシーツを丁寧に畳みました。この児童たちは、自分たちに分担された役割を行った後に、誰に依頼されたわけでもなく、自分たちの意志で“誰にも分担されていない仕事”を行っていたのです。本当に感激しました。

みんなで協力して生活することも目標であった今回の愛川体験学習のスローガン。子ども達はこの2日間できっと多くのことを学んだと思います。

ピザづくりの場面のように、互いに献身的に力を合わせ、とにかくおいしいピザを完成させるために、個々のもつ力をグループのために使いました。そして、シーツを畳む児童のように、誰にも分担されていない“のりしろ”の部分に気づき実行した児童もいました。大人の社会でもそうですが、計画には想定外の“隙間”が生じることがあります。誰にも分担されていない仕事に気づき、この隙間を自発的に埋めることはなかなかできることではありません。本当に素晴らしいことだと思いました。

今回の愛川宿泊体験学習で学んだことを、きっと学校生活の中でも活かしてくれると思います。ご来校の際には、ぜひ、子ども達の集団の一人として生活する姿もご覧いただきたいと思います。